

学校法人湘南ふれあい学園 2019年度 事業計画

目次

I	学校法人の概要	P. 1
II	学校法人湘南ふれあい学園の教育指針	P. 5
III	学校法人中長期計画	P. 7
IV	2019年度事業計画の概要	P. 8
V	各学校の事業計画の概要	P. 12
VI	財政計画	P. 25
VII	施設・設備計画	P. 27
VIII	生涯学習事業及び受託事業計画	P. 28
IX	収益事業	P. 28
X	監査計画	P. 28

I 学校法人の概要

学校法人湘南ふれあい学園は「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」を理念とし、高度な専門知識と技術を修得する意欲を主体的に持ち、人と協働しながら、社会に奉仕でき、次世代のリーダーとなる保健医療人・社会人を育成することを目的とし、湘南医療大学、茅ヶ崎看護専門学校、茅ヶ崎リハビリテーション専門学校、下田看護専門学校、医療ビジネス観光福祉専門学校、そして、幼保連携型認定こども園みどり幼稚園の各学校・園を運営しております。

本学園の各校各部門が教育理念に基づき、具体的な教育方針に則り、教職員等の人事計画、財政計画、組織運営計画等を事業計画に基づいて実施する所存です。

理念

『人を尊び、命を尊び、個を敬愛す』

その考えのもとに保健・医療・福祉・教育を担当しそして、社会へ奉仕する事をめざすものです。わたしたちは、すべての人々のしあわせに、今、役立ちたいと願っています。

- 1 やさしさと思いやりのある保健・医療・福祉・教育の実践
- 2 生命^{いのち}を全うしていただくための知識・技術の習得
- 3 その人らしさと個別性を尊重し敬愛す

わたしたちは、理念の実践者になります。

教職員の行動基準

1 使命

ふれあいグループの理念を基本として、地域の人々の幸せに役立つ保健・医療・福祉・教育を保障するために、専門職的で倫理的な医療と教育を行なうべく最大限の努力を尽くす。

2 地域社会への貢献

ふれあいグループの医療と教育機能を地域の医療・教育体系に連携し、効率的な地域サービスの成果を挙げることに努める。

3 研修と教育

教育者としての研修に励み、ふれあいグループとして提供できる医療教育水準の向上と後進の教育に努める。

4 記録と守秘義務

記録を完備し確実に管理するとともに、職務上知り得た個人の秘密は厳守する。

5 管理運営

学生中心の教育の心構えを堅持し、ふれあいグループが地域社会に必須の医療並びに教育施設として存続できるよう、公正で合理的な管理運営に努める。

事業基本方針

- 1 私たちは、PDC 活動により学校経営に全職員が参画し、さらなる発展を目指します。
- 2 私たちは、学生・園児に最適な教育サービスをタイムリーに提供します。
- 3 私たちはやさしさ、思いやりと気配りのある態度で仕事をします。

全教職員参加

- 1 PDC 活動の推進（部門・個人 PDC の精度向上）
- 2 安全管理体制の強化（委員会活動の活性、規程類の再点検）
- 3 FD・SD 活動、ふれあい研修活動の推進（授業内容、職務内容の改善による教育水準の向上）
- 4 業務改善運動の推進及び 6 S 活動の実践
（業務遂行の効率アップによる時間外削減及び時間の有効活用、整理・整頓・清掃・清潔・しつけ・作法の取り組み強化）

法人の概要

- 1 設置する学校（学校名・学部・学科・専攻等・開設年度）

学校名	学部学科専攻等		開設年度
湘南医療大学	保健医療学部	看護学科	2015 年
		リハビリテーション学科	
	大学院 保健医療学研究科		2019 年
幼保連携型認定こども園 みどり幼稚園	1 歳児、2 歳児、3 歳児（年少）、4 歳児（年中） 5 歳児（年長）		1949 年 <small>※2017 年より幼保連携型認定こども園</small>
茅ヶ崎看護専門学校	看護学科		1994 年
茅ヶ崎リハビリテーション専門学校	理学療法学科		1998 年
	作業療法学科		
	言語聴覚学科		
	社会福祉専攻科		
下田看護専門学校	看護学科		2004 年
医療ビジネス観光福祉専門学校	医療ビジネス学科		2014 年
	観光学科		
	介護福祉学科		2019 年
	介護福祉士実務者研修		

2 学生・園児数・・・学校別

(学部・学科等、入学定員、収容定員、入学者、在籍者、H30年度卒業生数)

[湘南医療大学]

学部・学科・専攻等		入学定員	収容定員	入学者数	在籍者数 2019.4.1				H30年度 卒業生数	
					1年	2年	3年	4年		
保健 医療 学部	看護学科	80(10)*	340	84	84	85	99	88	82	
	リハビリテーション 学科	理学療法専攻	40	160	45	45	43	46	42	36
		作業療法専攻	40	160	41	41	42	45	41	26
大学院	保健医療学研究科	12	24	11	11	—			—	
合計		182	684	181	181	170	190	171	144	

*3年次編入学定員

[幼保連携型認定こども園みどり幼稚園]

認定区分	入学定員	収容定員	在園者数 2019.4.1					H30年度 卒園生数
			1歳児	2歳児	年少 (3歳児)	年中 (4歳児)	年長 (5歳児)	
1～3号認定	—	218	8	10	54	58	59	68
合計	—	218	8	10	54	58	59	68

[茅ヶ崎看護専門学校]

学科名	入学定員	収容定員	入学者数	在籍者数 2019.4.1			H30年度 卒業生数
				1年	2年	3年	
看護学科	80	240	82	84	86	74	62
合計	80	240	82	84	86	74	62

[茅ヶ崎リハビリテーション専門学校]

学科・専攻科名	入学定員	収容定員	入学者数	在籍者数 2019.4.1				H30年度 卒業生数 (修了)
				1年	2年	3年	4年	
理学療法学科	70	280	71	78	62	69	64	53
作業療法学科	30	120	20	22	19	22	22	17
言語聴覚学科	35	70	36	37	30			33
社会福祉専攻科	80	160	53	53	64			45
合計	215	630	180	190	175	91	86	148

[下田看護専門学校]

学科名	入学定員	収容定員	入学者数	在籍者数 2019.4.1			H30年度 卒業生数
				1年	2年	3年	
看護学科	40	120	40	40	43	39	32
合計	40	120	40	40	43	39	32

[医療ビジネス観光福祉専門学校]

学科・研修名	入学定員	収容定員	入学者数	在籍者数 2019.4.1		H30年度 卒業生数
				1年	2年	
医療ビジネス学科	40	80	23	23	14	29
観光学科	40	80	72	72	61	58
介護福祉学科	35	70	15	15	—	/
介護福祉士実務者研修	30	30	※1	※1		
合計	145	230	110	110	75	87

※1 介護福祉士実務者研修は7月1日開講予定。

II 学校法人湘南ふれあい学園の教育指針：

1 教育力を高める活動

- I 学園各校は、教育力を高め、学生の学習力や学力の質保証を達成させると同時に、学力の到達度の確認・点検を行うための活動として、FD活動を実践しています。FD活動を充実させるために、教員は、学生の学習力を引き出し、やる気を目覚めさせ、卒業目標(ディプロマ・ポリシー)にかなう最高の人材養成教育を行うと同時に国家試験に合格する教育を実践します。
- II 教員は、担当授業科目においてカリキュラムポリシーに沿った水準を超える学力を達成するために情熱をもって教育し、学生が理解できるように教え方を工夫します。また、学生の毎日の勉強の習慣づくりを指導します。

2 教員の資質を高める活動

1) 中央教育審議会答申「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」(平成24年8月28日)(抄)「2. これからの教員に求められる資質能力」において、教員は、不断に最新の専門的知識と指導技術等を身に付けていくことが重要となっており、「学びの精神」がこれまで以上に強く求められていることが以下に示されています。本学園も、その答申の趣旨に沿って、教員の資質を高める活動を実践します。

- I 教職に対する責任感、探究力、教職生活全体を通じて自主的に学び続ける力(使命感や責任感、教育的愛情)
- II 専門職としての高度な知識・技能
- ・ 教科や教職に関する高度な専門的知識(グローバル化、情報化、特別支援教育その他の新たな課題に対応できる知識・技能を含む)
 - ・ 新たな学びを展開できる実践的指導力(基礎的・基本的な知識・技能の習得に加えて思考力・判断力・表現力等を育成するため、知識・技能を活用する学習活動や課題探究型の学習、協働的学びなどをデザインできる指導力)
 - ・ 教科指導、生徒指導、学級経営等を的確に実践できる力
- III 総合的な人間力(豊かな人間性や社会性、コミュニケーション力、同僚とチームで対応する力、地域や社会の多様な組織等と連携・協働できる力)

2) 21世紀の大学像と今後の改革方策について-競争的環境の中で個性が輝く大学-(答申要旨 平成10年10月26日大学審議会)における教育方法等の改善の中、「授業の設計と教員の教育責任」を実践します。特に、本学園の教員は教室や実習室における授業だけでなく、授業の前提として読んでおく文献を指示する等学生が事前に行う準備学習・復習についても指示を与え、実際の現場で躓かないように実習前には学内でのシミュレーション実技を繰り返し指導するなど授業設計や学習指導内容を策定します。

3 学生の人間性を高める活動

1) 理念「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」の実践できる学生を教育します。

2) 本学園は、人間性を高める教育活動として、湘南医療大学であれば、「総合教育科目」の科目群、看護・医療系専門学校であれば「科学的思考の基礎と人間と生活、社会の理解」の科目群において、人間形成のために必須な科目を学修し、心の成長につなげます。各校では、文学、倫理学など初年次教育にこれらの科目を履修することにより涵養され、医療従事者として必要な資質の形成を目指します。

また、学生の積極性と社会性を涵養する教育の一貫として、学園全体で行うクリスマスキャロリングは、病院施設に出向き患者様に安らぎを与えるボランティア活動で、人間形成に大いに役立っています。社会に貢献し、人との繋がりを感じ、知見を広げることが将来の医療活動に大きな意義をもたらす活動として継続していきます。

3) 本学園は、ふれあいグループ病院施設と連携して、公開講座、保健医療福祉に関わる学園広報活動及びイベントを実施します。今後も、地域連携活動に参加し、地域の方々を支援する活動を通して社会貢献を行い、協力精神を学びます。

4 学生の将来につながる指導力の発揮

教員は、医療従事者を目指す学生に、授業での教育の効果を指すだけでなく、どのような過程を踏んでその学生が学問的に、人間的に、成長していくかを考えて、勉強や生活に関するアドバイザーとして、学生の成長に貢献します。

Ⅲ 学校法人中長期計画：

私学を取り巻く環境は、一段の少子化により、厳しさを増している。湘南ふれあい学園各校(園)では、今後においても地域に必要とされる学校(園)であり続けるため、2019年度を初年度とする事業方針を策定し、中長期事業計画立案の指針とした。

第1期事業計画期間：2019年度～2022年度

学園中期事業方針：各学校は、地域社会に対して主体性、多様性及び協働性を有する「学修者」を育成する。

＜重点課題＞

- ①将来の医療従事者となるべく高い志を有する入学生の確保
- ②教育及び研究の質向上と地域貢献
- ③学生の満足度向上と学校(園)の付加価値の向上

2019年度

ア 湘南医療大学 認定看護師研修センター認定看護管理者セカンドレベル開講予定

イ 文科省防災機能等強化緊急特別推進事業に応募し、下田看護専門学校学生寮の耐震化工事を予定。

ウ 2021年4月湘南医療大学に薬学部設置に向けて教員確保、教育用備品の準備等、申請準備を計画的に進める。

エ 2021年4月湘南医療大学の第3の学部として、茅ヶ崎保健医療学部(仮称)の設置計画準備を開始する。

第2期事業計画期間：2023年度～2027年度

学園中期事業方針：主体性、多様性及び協働性の強化により、各学校の「学修者本位の教育力」を結集し、湘南ふれあい学園としての「総合力」を育む。

第3期事業計画期間：2028年度～2032年度

学園中期事業方針：湘南ふれあい学園として地域社会に対して主体性、多様性及び協働性を示すことができる保健、医療、福祉、教育が連携する「湘南ふれあいブランド」を構築する。

IV 2019 年度事業計画の概要

湘南医療大学では、「地域に根ざした医療大学」を目指すべく、目標達成に向け、以下の重点事業を計画する。

学部学科専攻においては、時代の要請に応える人材養成として、2019 年度からの看護学科教育課程の改訂を行う。更に、2021 年度開設構想の薬学部のキャンパス計画を立案する。また、大学院保健医療学研究科においては、保健医療に関わる高度専門職業人を養成する教育研究活動を行う。研究支援体制を強化し、科学研究費補助金や外部研究資金等の獲得を促進していくとともに、大学臨床医学研究所並びにグループ臨床現場との共同研究に向けた研究施策を検討する。上記のほか、「教育」、「研究」、「施設」、「運営」、「広報」の 5 分類の分野において、以下の主な事業の行動計画を実行する。

- (1) 入学者全員卒業、全員資格試験合格、全員就職・進学
- (2) ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーに基づいた教育課程並びに開講科目の定期的検証
- (3) インターンシップ提携先施設との充実
- (4) 地域連携による共同研究活動の推進に向けた、医療施設等との連携事業の強化
- (5) 学習並びに学生生活支援の充実による休退学者の減少
- (6) 中長期計画に沿った取り組みの着実な実行
- (7) 湘南ふれあいブランドを中心に据えた広報活動と次世代医療を担う低年齢層をターゲットとした職業体験会をふれあいグループ病院施設と連携して実施
- (8) 医療従事者並びに社会人向けの研修事業の拡大

2. グループ連携教育

- (1) グループ奨学金制度による、優秀な大学院留学生の獲得
- (2) 地域医療に貢献できる人材教育の推進
- (3) 授業内容の改善や到達目標の設定及び、卒業認定試験の実施検討
- (4) 実践力強化に向けた指導方法の改善
- (5) 臨床実務家教員による、臨床教育の充実
- (6) 本校独自の臨床教育の確立を目指した教科指導法の研究推進
- (7) 専門学校と大学による連携教育の充実
- (8) グループ病院施設と連携を図り、多職種連携に必要とされる知識、技術、課題解決能力を養えるチーム医療教育の実践を図る。

3. アクティブ・ラーニングの活用等特色ある教育

- (1) 学生同士の知的交流を生み出すグループワークの充実
- (2) 学内無線 LAN やプロジェクター等を積極的に活用した効果的な授業の実践
- (3) 落第者を輩出しない授業内容及び特色ある教育課程の設計
- (4) 主体的な学びの推進
- (5) 情報リテラシー教育の充実

- (6) 学生1人ひとりにきめ細やかなキャリア支援教育を実現
- (7) 湘南ふれあい学園各校及びふれあいグループとの連携行事・活動の実施

4. 地域連携推進活動

- (1) 多様な地域貢献活動の円滑かつ計画的な実施と実践の質向上
- (2) 公共団体自治体等と連携し、地域にねぎし、地域と共に歩む活動を推進
- (3) 地域公開講座の実施
 - 1) 大学まつり/専門学校進学 2) 中学校職業体験受入れ 3) 中学生対象大学体験会
 - 4) 地区住民の環境をモデルとした研究または実習

5. 研究推進活動

- (1) 個人研究並びに個人研究費

個人研究計画書に基づき、2月開催の「医療・教育研究会」での発表に向けて、研究活動を実施する。また、個人研究費は、研究目的とルールに従って公正・適正に執行する責務を負うため、本年度は個人研究費規程を改正し、経費執行から研究成果に至る社会的説明責任を果たす。
- (2) 公的研究の推進(継続)

研究倫理教育、科研費応募説明会、研究不正防止研修など、競争的研究費の獲得支援を行う。
- (3) 共同研究の推進

研究者とグループ病院施設との共同研究を活発化させて、地域医療に貢献する研究活動を行う。
- (4) ブランディング研究(継続)

大学独自色を打ち出せる特色ある研究を臨床医学研究所と連携を行いつつ、継続的に検討する。

6. 奨学金等による学生生徒等支援

「ふれあい奨学金」により、湘南ふれあい学園に在籍する学生の奨学・修学の奨励等を行い、有為な人材の育成、教育研究の振興の進展を図る。また、魅力と特色ある教育活動の具現化を推進するため、社会的価値向上に貢献できる活躍が期待される活動への奨励を積極的に行う。

7. 学校間連携

湘南医療大学と系列専門学校4校との「大専教員連携」は、相互出張授業、学生サークル活動や部活動連携、連携同窓会組織など、スケールメリットを活かした学校間連携を展開する。大学とみどり幼稚園との「幼大連携」については、実習施設として、また、幼稚園のイベント等のサポートや、大学教員による幼児・園児の栄養、アレルギー教育に関する認定こども園教員・保護者対象の研修会の実施などにより緊密な連携を図る。これらにより、湘南ふれあい学園としての総合力を高める。

8. 設置学校（園）の定員充足率 100%

18歳人口は、2030年までに10万人以上減少し続ける。この厳しい少子化の状況下、本法人は、大学と医療系専門学校の対象受験生が重複しているため、学生確保は、更に厳しさを増すことが予測される。

そのため、学校法人の理念並びに3つのポリシーの実践により、地域から必要とされる魅力的な学校(園)になるための広報活動及び各関係機関(者)との連携活動の推進が不可欠であると考えている。

- (1) 地域ニーズを反映できる質の高い高大連携(高専連携)、出前授業、公開講座等の実施
- (2) ふれあいグループ各病院施設と連携し、学園ブランド力を地域に発信する活動
- (3) 既受験者高校並びに高校教員との信頼関係を強め、教員向けの説明会の充実や細やかな対応の実施
- (4) 受験生が望むタイムリーな学園教育活動及び入試情報の提供
- (5) WEB、スマートフォン、ホームページ等の電子広報活動
- (6) 地域自治体、企業等団体との連携による、研究成果等の社会還元及び社会貢献活動

9. 人事計画及び組織

(1) 人事計画

各校(園)の事業計画を達成するために資質の高い人材を登用し、全教職員が学生全員に寄り添った教育活動に専念できる組織を編成するため、各部署で適正と判断される人員数の配置を進める。

(2) 職員配置

2019年度の各学校別の専任教職員数は以下のとおりとする。尚、大学のみ、教授、准教授、専任講師、助教、助手の内訳を記載する。

	2019年度現員(2019.4.1)		計
	教員	職員	
湘南医療大学	62	20	82
幼保連携型認定こども園みどり幼稚園	25	4	29
茅ヶ崎看護専門学校	18	7	25
茅ヶ崎リハビリテーション専門学校	21	12	33
下田看護専門学校	8	4	12
医療ビジネス観光福祉専門学校	12	6	18
法人本部	1	6	7
計	147	59	206

[湘南医療大学]

*兼担含まず

学部	学科・専攻	教授		准教授		講師		助教		助手		計		
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
保健 医療 学部	看護学科	7	3		5	1	6	2	7	1	1	11	22	
	リハビリテ ーション学 科	理学療法 学専攻	6		1	2	2		2				11	2
		作業療法 学専攻	4		1		5	1	1				10	2
大学院	保健医療学研究科*	1	1						2			1	3	
計		18	4	2	7	8	7	4	10	1	1	33	29	

(3) 組織

ア 学園行動規範

本学園の行動規範に従い教職員の自己規律や倫理道徳を徹底する。また、朝礼の五訓を実践し、学生並びに教職員が常に成長していくことができる組織を目標とする。

イ 会議・委員会

運営管理会議、教授会、各校運営会議、各種委員会等の会議を充実させて、経営と教学が連動して「教育の質の向上」を目指す。そして国家試験 100%、休退学者 0 を目標に教育指導体制を整備する。

ウ IR 担当の設置(継続)

大学、各専門学校が行っている教育内容・研究内容の開示、グループ関連病院施設等での実習施設情報等、教育・研究・経営全般の様々な情報収集・分析を反映した企画・立案する IR 担当者を設置できる環境を整備する。今年度も引き続き、学生・保護者等学園を支援する方々に、教育活動及び経営情報を提供し、学園の目指す姿を提示し、理解を深めてもらえるよう計画的に実施する。

(4) 人材育成 (全学連携の教育改善活動の推進)

ア 全体研修会 (FD・SD活動)

全体研修会において、事務職員は、SD研修を継続的に実施するとともに、次世代リーダーの育成を図る。また、自己啓発支援を実施し、特にPCスキル、文書作成、財務能力の向上に向けた研修に取り組む。教育職員は、授業力・教育力・指導力等、資質向上に向けた体系的な階層別研修を実施し、個々の教育スキルの向上に取り組めるFD活動を行う。

イ 全学PDC活動

中央教育審議会は「学士課程教育の構築に向けて」の答申において、「学士の水準の維持・向上のため」に、①学位授与の方針(DP)、②教育課程編成・実施の方針(CP)、③入学者受け入れの方針(AP)の三方針を実施する手法として「PDCAサイクルの徹底」を提唱している。本学園は、全対象で、PDC活動と称し、毎月、①学生募集②教務・学生支援③国家試験対策④6S(清掃、整頓、清潔、躰、作法)活動⑤業務改善(教育課程、シラバス、学生便覧、教授方法等)の項目について、Plan(計画)・Do(行動)・Check(確認)を実施し、問題点や課題点の対策を行う。

(5)コンプライアンス教育

ア 寄附行為及び各種規程規則に基づいて、理事会、評議員会及び各会議委員会を運営する。

イ 各校毎に理念・目標に照らして教育研究活動の状況を自己点検し、現状を正確に把握・認識した上で、その結果を踏まえ、優れている点や改善を要する点など自己点検評価を行う。

ウ 教職員ハンドブックの配布を通じて、行動指針や行動規範の周知徹底を図る。

エ 学生指導記録やUSBメモリの取扱方法等、学内研修会を通じて教職員に啓発を行う。

オ 個人情報を含む職務上知り得た情報の管理・運用やSNSの適切な利用について徹底した注意喚起を行い、一層の職員の規律を高める。

V 各学校の事業計画の概要

1) 湘南医療大学

2019年度の基本方針

○保健医療学部の特徴である3つの教育実践

学部の特色である次の3つ事柄について見通しを持って取り組んでいく

①高度な専門知識と技術教育

学位授与の方針、教育課程の編成と一体化し、総合教育科目から専門科目までを学生が体系的に科目を履修できるように配置し、看護師およびリハビリテーションの専門職として実践するにあたり、必要な知識・技術を身に付ける。

②質の高いチーム医療教育

医療チームの成員が互いに協力して、患者を中心とした総合的で良質な医療サービスを提供することが重要となった。患者・家族とともにより質の高い医療を実現するためには、個々の医療スタッフの専門的知識及び技術の進歩を土台としながら、多職種の協働（チーム医療）を通してこれらを再統合していくことが必要であり、そのための人材の育成を行う。

③地域医療の充実

地域実習（臨地実習・臨床実習）体験を通じた実践的教育をカリキュラムに反映させ、在宅生活者の多様なニーズに適切に応え、且つ社会の変化を適切に判断し、行動することで地域社会に貢献できる看護師、保健師、理学療法士、作業療法士を養成する。

○大学院における教育研究上の目的に沿った人材養成

高度専門職業人の養成並びに地域医療に貢献できる人材を育成する。

①高度専門職業人の養成

保健医療学の3領域（健康増進・予防領域、心身機能回復領域及び助産学領域）を対象とした学問的基盤を熟知し、保健医療に関わる高度専門知識・技術を有する臨床実践者を養成する。

②チーム医療の中心として貢献できる指導者の養成

臨床的学問探求を培い、地域医療において研究者としての基本的研究手法を修得し、臨床現場（医療施設、保健施設、行政、地域）で高度な医療専門性を生かしチーム医療の中心として貢献できる指導者を養成する。

2019年度の重点目標

次の16項目を重点に継続的に取り組む。

①理念の実践

湘南医療大学の理念は、「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」ふれあいグループ統一の理念です。大学はこの考えの基に社会に貢献し、世の中の全ての人々の幸せに役立つスペシャリストを養成する事を目的としています。この理念は「人間を尊重する事。やさしい思いやりの心で実践する事。」「生命を尊重する事。医療人として命を全うする為の高度な知識と技術の取得に一生懸命、そして、患者の生活の質 クオリティオブライフの向上を目指す実践者と成る事」「個性の尊重、その人らしさ

を尊重し、個別的に対応する事。自分以外の一人ひとりの個性と能力を尊重する行動を取る事」を意味します。教職員はふれあいグループに愛着を持った新しい校風を築くため、全教職員が学生を交えながら、湘南医療大学の理念の実践者となるように努力していく。

②自律的な学生を育てるための取り組み

知識注入型の授業で学生が受け身になってしまわないよう、グループワーク、ディベート、プレゼンテーションなど学生参加型の授業を取り入れ、学生が学んだ知識を活用することの喜びや充実感を感じられるようサポートしていく。

また、教員・学生間のコミュニケーションは学習意欲を高めることから、学生との関わりを大切にするための施策を各委員会が連携協力し実施していく。更にオフィスアワーを充実させていく。

更に、医療人としての道徳心を持った人材の養成に努めると共に、マナー教育にも力を注いでいく。

③人間を全人的に見ていく力を育てる取り組み

実習においては、全人としての人間に目を向けるという力を育む教育体験が行えるよう、事例を深化させていく。

④授業評価の結果を生かして学生に理解できる授業の実施

授業終了時に「学生による授業評価」を行い、学生の理解状況を教員が次の授業に生かせるようなリフレクションペーパーを作成する。関連科目の担当教員間で情報交換を行い、無用な重複を避け内容を精選する。なお、授業展開においては学生の理解状況を確認しながら進める。

⑤カリキュラム評価

設置時のカリキュラムで学んだ学生は到達目標でもあるディプロマポリシーに掲げた能力が身に付いたか、学修の順序性や教授内容の難易度は適切であったか等カリキュラム評価を行う。完成年度を迎える時期まで学生・教員の両方を対象にカリキュラム評価を実施し問題点を明確にできるように評価のあり方を検討しながら進める。

⑥チューター制度・担任制度

看護学科では、1人の教員が10名程度の学生をサポートする「チューター制度」を、また、リハビリテーション学科では、担任制度を設けて、1クラス2名の担任及び副担任を配置して、履修計画から修学指導、学生生活相談などにきめ細やかに個別で対応し学生の4年間の成長をサポートしていく。

⑦オフィスアワー

学生と教員のコミュニケーションの充実の一助であるオフィスアワーを活用し、設定時間帯に学生からの授業・履修内容等に関する質問や勉強の方法、さらには就職や将来の進路などの個人的な相談も、専任教員が親身に相談に対応していく。

⑧学修支援・国家試験対策支援

総合教育科目は、理解できるまで行う丁寧な授業で専門科目を学ぶ上で大切な基礎学力をしっかりと身につけさせることを目的とする。そのために、新入生の入試等の力で基礎学力を見極め、個別の学修支援に役立てる。また、小テストなどの反復問題練習や国家試験の基礎的な学力問題も解かせることも行い、早期から計画的な国家試験受験対策を実施する。

⑨FD・SD 研修

2019年度のふれあいグループの研修テーマに則り、全体研修会並びに医療研究会と連携しつつ、大学としてのFD計画を着実に履行していく。また、大学部会を活用したSD研修も実施する。

⑩自己点検・評価の実施

認証評価機関である「日本高等教育評価機構」の認証評価項目等を参考に、平成29年度の活動状況をまとめると共に、平成30年度の活動状況についても自己点検・評価を行う。

⑪キャリア支援センターの充実

学生のキャリア形成に必要な事業の企画、カリキュラム編成及び必要な情報の収集を行うと共に、国家試験対策に必要な事業の企画・実施、カウンセリング及び情報収集・提供等を行い、学生の国家試験合格率の向上を図る。

⑫看護実践教育センターの設置による事業の推進

ア. 認定看護師養成課程（認知症看護分野）の充実 定数15名

認知症者とその家族の支援に関する最新の知識と技術を習得させ、水準の高い看護実践ができる認知症に関わる看護職を育成する。

イ. 認定看護管理者養成課程の新設 定数20名

主にふれあいグループの病院や介護老人保健施設などの管理者として必要な知識を持ち、患者様やご家族などに対して質の高いサービスを提供できるよう組織を改革し、発展させることのできる能力を有する看護師の育成に努める。

⑬保健師助産師看護師実習指導者講習会の開催・実施 定数20名

ふれあいグループの病院等における看護教育の実習の意義及び実習指導者としての役割を理解し、効果的な実習指導ができるように、必要な知識・技術を習得し、資質の向上を図る。

⑭湘南医療大学臨床医学研究所の充実

湘南医療大学とふれあいグループの各施設との連携により、臨床・研究・調査を実施する。研究員は個人研究を行うほか、ふれあいグループの保健・医療。福祉・教育機関を中核として外部施設との共同研究を進め、その成果を湘南医療大学の教育に還元することを目指すものである。

研究員の研究費助成のほか、科研費等外部資金の申請・獲得の支援を行う。

⑮国の補助金（私立大学改革総合支援事業等）の獲得

完成年度を過ぎ、新たに国の経常費補助金（一般、特別補助）の交付対象となるため、特に、大学改革にもつながる私立大学改革総合支援事業の採択に向けた対応を行う。

⑯大学院教育の充実

大学院生の受入れ体制、履修指導、研究指導体制を充実し、学生の研究・教育の遂行に資するとともに、2年次に向けた中間発表会、修士論文の審査体制の構築を図る。

2) 茅ヶ崎看護専門学校

2019年度の基本方針

目標1. 教職員は教育者としての自己の資質を高め、その役割を遂行する。

- 1) 教育の本質を見極める思考を深化させる。
- 2) 看護者としての倫理観を醸成し、かつ学修者が常に学習意欲を持ち、自己の振り返りを行いつつ卒業まで学び続けることができるよう支援し、「看護者」を育てる。
- 3) 学修者にとって魅力ある教授方法を高めることで、「学び」を楽しむことのできる学生を育てる。
- 4) 日々の教育実践の評価を通し、国家試験合格を確実にする学力の向上を図る。

- 5) 学生同士が愛情・思いやりを持って他者に向き合えるように慈しみをを持って寄り添う。
- 6) 教員は学生に対し、「学ぶ姿勢」について自己をもって示す。

目標2. 教職員は看護学の専門家としての研究的能力を高める。

- 1) 看護者としての倫理観は基より教育者としての倫理観と自己の行動を照らし合わせ、振り返りを行い、自己を高める。
- 2) 科目評価を行い、教育者としての課題を明らかにし、教育力を上げるために取り組む。
- 3) 自分自身の専門性を高めるための研究的視点を深め、学会・研究会に参加し、専門分野の研鑽に努める。
- 4) 学会発表等を通じ、研究を追求し、他者との交流を持つ。

2019年度の重点目標

- 1) 様々な背景を持つ入学者を「支援する」「育てる」意志を持ち、どんな困難をも乗り越えられる学校運営を教職員一丸となっていく。
- 2) 入学時の動機づけが在学中3年間を通しての態度の根幹となる。教職員は入学時の動機づけを学生に対し、丁寧に指導・支援を行う。また、良き習慣を身に付けるよう学生を導く。
- 3) 1年次より国家試験対策を計画的に実践し、基礎学力を向上させる授業を展開し、100%合格を目指す。
- 4) 学生がふれあいグループへ就職する意思を持てるよう関わり、「グループへ就職をする」伝統を継続させる。
- 5) 多くの学生がふれあいグループ奨学金を活用し、安心・安定した学生生活を送れるよう支援する。
- 6) 学生の生活態度の把握と指導を行い、休退学者0名を目指す。また、看護師になるという目標を常に意識させ、学ぶことの楽しさ、看護を行うことの喜びを感じる教育を実践する。
- 7) 2022年4月学部昇格に向けて地域に貢献できる学部を目指し、計画を遂行していく。

3) 茅ヶ崎リハビリテーション専門学校

2019年度の基本方針

学校目的（本校のビジョン）をもとに各教職員が行動計画を実践し、学生はもとより保護者や卒業生にも信頼される学校運営を推進する。

また、大学学部昇格に向け、教職員の力量を向上することはもちろん、学生に対しては、生活指導を充実することにより、学習習慣を確立させるとともに、課題解決力や省察力を高めることを推進する。

- 1) 教職員一人ひとりが学校運営に積極的に関わり、活力ある学校づくりを推進する

リハビリテーションに関連した教育活動を通して、他者との関わり上手な人間形成を育成することにより、「ふれあいグループ」にとって有益な人財を養成するとともに、教職員は共通の問題意識を持ち、「学生のためにできることは何でもやる」積極的な業務を遂行する。

- 2) 学生への支援プログラムを充実する

学習習慣を身につけさせるとともに、ヒューマンスキルの向上をも目指した生活指導を充実するこ

とも目標として、「徹底的に学生の面倒をみる」というスタンスで、必要なプログラムを工夫し展開させる。

3) 大学学部昇格に向けた学校運営の基盤整備をする

先行き不透明な専門学校教育から脱却し、湘南医療大学の新学部として生まれ変わる準備をする年と位置付け、来るべき養成校カリキュラムの変更にも対応した「即戦力」として活躍できる人材の育成を目指した、教育内容やシステム・設備の充実を図る。

<教務課 基本方針>

学習習慣や生活習慣などの確立を徹底し単に優秀な人材の育成ではなく、医療スタッフとして必要とされる優しさなど人間力を高める教育に心がける。また、国家試験の合格率を高めることを目的とした、入学時から卒業時までの体系的な国試対策プログラムを模索・展開する。

<事務課 基本方針>

学生募集活動の環境が激変し、資料請求者数や来校者数の減少を踏まえた広報戦略を確立する。そのため、来校者に対して個々に対応できるプログラムや本校の魅力を前面に出した、教職員一丸となった風通しの良い明るい学校運営を徹底する。

2019年度の重点目標

<教務課・事務課共通 重点目標>

1) 学生募集の強化

- ・学校説明会や見学会の運営方法を変更し、本校の特徴をわかりやすく高校生に伝える工夫をする。特に作業療法学科については高校生にわかりやすく、興味を抱かせる個別説明等募集活動をする。
- ・医療グループ内の学校であり、即戦力として活躍できる特色をアピールした学生募集活動を展開する。

2) ふれあいグループとの連携強化

- ・小・中・高学生に対し、高等教育機関としての職業教育に関する説明会などを通して、ふれあいグループの病院見学を導入し、医療の重要性や正しい知識を根付かせる活動を展開する。

3) ふれあいグループへの就職希望者の増大

- ・ふれあいグループの理念を理解する卒業生の8割が、グループに就職できるように、定期的な交流活動や情報提供活動を行なう。
- ・ふれあい奨学金の受給希望枠や奨学金の内容を変更して、定員枠の受給者を確保する。

<教務課 重点目標>

1) 国家試験の合格率100%を目指す。

- ・学習習慣を身に付けさせる教育・学生指導を徹底し、国家試験に対する意識づけを計画的に行う。
- ・定期試験では国試形式の問題を積極的に取り入れ、分野別の補講や模擬試験を数多く実施し、弱点把握とその克服を図る。

2) 退学・休学防止

- ・教員は学生が興味深く学習できる授業方法を繰り返し実践し、学生は粘り強く学習できる環境を整

える。

- ・学生一人ひとりの学習状況を把握する面談を随時実施し、個人の悩みや学習課題が常にわかるようなクラス運営を工夫する。

<事務課 重点目標>

1) 学習環境の整備

- ・安心して学べる学習環境の整備として、学習備品や事務備品の整備はもちろん、学校生活を安全に送れる防災対策を含めた学習環境の充実を図る。

2) 授業の円滑な運営アシスト

- ・学生の授業理解度や学習進度の把握をすることにより、非常勤講師に適切な情報をフィードバックする。
- ・学校行事や各種イベントを安全かつ効果的に実施できるよう企画・運営する。

3) 事務スキルの向上

- ・創意工夫を繰り返し、間違えの起こらない手順や段取りを再確認し、チェック機能を充実する。
- ・繁忙期の超過勤務を抑制できるスキルアップを身につける。

4) 医療人としての道徳・マナー教育の充実

- ・職業人育成の観点から、将来医療職につく学生に対する道徳・マナー教育を充実させ、モラル向上等社会人基礎力を高める教育を充実する。

下田看護専門学校

2019年度の基本方針

- 1) 少子化現象および大学への進学が進む中においても尚、学生数の定員を確保する。
- 2) 広く静岡全県および県外からの優秀な学生の確保に取り組む。
- 3) 教育内容は、改定カリキュラムの主旨に沿って、科学的看護実践力を高めること、コミュニケーション能力をつけること、医療安全のスキルを身に付ける等を柱とする。
- 4) 本校の特徴としている「下田看護専門学校国試サポートプログラム」をさらに充実した内容へと進化させた学習支援体制とする。
- 5) 退学者の減少をめざし、40人が揃って卒業し、揃って就職できるよう指導する。
- 6) ふれあい奨学金の推奨に努め、グループ内病院・施設への看護力充実の一役を担う。
- 7) 教員の定員を確保して教育活動の安定化を図る
- 8) 湘南ふれあい学園の禁止事項を中心にした医療人としての道徳、マナー教育の充実
 - ① 学校敷地内での全面禁煙
 - ② 携帯電話・スマートフォンの授業中の教室への持込みの禁止
 - ③ 誹謗中傷行為の禁止、安易・軽はずみなSNSへの投稿の禁止
 - ④ 麻薬、危険ドラッグ、悪徳商法への関わり禁止

2019年度の重点目標

教育内容の整備・改善・指導方法について以下の2点を重点とする。

○学年毎の目標を明確にして、職員の共通認識を持った指導をする。

○専門職業人の育成につながる指導を強化する。

1) 1 学年目標

①学生が学生生活に適応でき、学習習慣を身につけることができる。

②対人関係におけるコミュニケーション能力を高めることができる。

③看護実践力につながる基礎看護技術の原理、原則を身につけることができる。

2) 2 学年目標

①専門領域科目の関連性を意識した学習ができる。

②学校行事等を中心に主体的な企画力、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮できる。

③自己を取り巻く人々との関わりを通し、社会性を身につけることができる。

3) 3 学年目標

①臨地実習において既習の知識を活用できる。

②心身の健康管理を図り、学習の継続ができる。

③国家試験の合格を目指し、模擬試験等のデータを活用し補強学習を積み重ねる。

④実習グループにおける役割を通して、チーム活動における専門職業人としての社会性を身につけることができる。

4. ふれあいグループにおける教育部門としての位置づけ

1) 人材供給

卒業に向けての3年間で、看護師としての職業人を育むと同時に、全ての卒業生が「ふれあいグループ内」で活躍できる人材となるように指導する。

①量的課題

卒業生の全員がふれあいグループに就職するよう指導を行っていく。

②質的課題

- ・将来のグループを担える人材
- ・教育部門を支え・担える人材
- ・病院業務と同時に実習指導ができる人材

2) PR活動

学校の行うオープンキャンパスやガイダンス等の広報活動を通じて、静岡県内にふれあいグループのPRを行う。また、学校の業務に係る必要な雇用を創出し、ふれあいグループで働く場を提供し、ふれあいグループのPRに努める。

5. 部門別の目標

1) 看護学科の目標

- 1 実習施設との連携
- 2 国家試験の高い合格率の実現
- 3 休退学の防止
- 4 ふれあいグループへの就職の促進

5 医療人としての道徳、マナー教育の充実

6 研究活動の実施

2)事務課の目標

1 校名変更（新校名 湘南医療大学附属下田看護専門学校）

2 学生募集対策

3 円滑な学校事務の遂行

医療ビジネス観光福祉専門学校

2019年度基本方針

- (1) 「個」としてのアイデンティを見つけ出し、「公」としての自覚を持ち、ふれあいグループへの参画に寄与する人材の育成に全学科で取り組む。そのためにグループ入職のためのガイドラインを策定し、カリキュラム等の見直しを行う。
- (2) 学校目標および重点目標の下、より良い学校づくりを実践し、多くの高等学校や地域等から信頼を得て学校経営の安定化につなげる。そして、平成32年度生募集において広報担当の職員と各学科の教員は一致団結してそれぞれの定員確保の目標達成をめざす。
- (3) 学校・教員・学生の三位一体で学校のブランド創りを目指す。そのために高大接続を考慮した授業カリキュラムを展開し、能動的に学習できる授業デザインを行い、学生満足度を向上させる。
- (4) 教員力・組織力・環境力の充実と発展を目指す。本校の教育における全体像を把握するとともに、人間としての魅力を備えた教員力の向上、学生指導における協働の精神の涵養および学生と教員等の生活空間（学校）の充実を図る。

2019年度の重点目標

- (1) ふれあいグループに貢献できる人材養成

①平成31年度学科の構成

学年	学科	専攻	定員
2年	医療ビジネス学科	医療経営	40
		医療情報管理	
	観光学科	トラベル・交通	40
		ホテル・ブライダル	
1年	医療ビジネス学科	医療経営	40
		医療情報管理	
	観光学科	トラベル・交通	40
		ホテル・ブライダル	
介護福祉学科		35	

②平成31年度グループ入職ガイドラインの策定とカリキュラム等の見直しと改善

各学科とも目指す職種別に就職先施設（企業）と連携を図り、目指す仕上がり像の見直しを行う。その上で、仕上がり像に含まれる知識、技術・技能を把握し、学科ごとの教育目標（成績評価や資

格取得など)と教育カリキュラム(授業デザイン)の見直しと改善を行う。

③介護福祉学科については、新設初年度のため教職員一同協力して教育指導にあたる。

(2) 学校経営の安定化

①魅力ある学校づくり

(ア) 保護者および地域社会、小中高校との連携を図り、開かれた学校づくりを行う。

(イ) 学習意欲向上と資格取得および基本的知識・技術を習得させるための工夫・改善を行う。

(ウ) 基本的な生活習慣の確立と学則の遵守および社会マナーの習得とコンプライアンス意識を身につけさせる。

(エ) キャリア教育等を通して将来を見通す意欲と主体的な職業観を育てる進路指導と活動支援を行う。

(オ) 新学科の円滑な立ち上げを図る。

②平成32年度入学生の確保

(ア) 入試制度の改善

高校3年生に対する入試制度は、指定校推薦、一般、AOの3通りとする。高校既卒者はAOと一般入試の2通りの入学方法とする。

(イ) ガイダンス・学校訪問

医療ビジネス観光福祉専門学校の名称と設置学科の認知度を上げオープンキャンパスへの来校者数を増やすため、ガイダンスと学校訪問に対しては、広報担当者だけでなく全教職員が一丸となって広報活動に取り組む。

(ウ) オープンキャンパス

入学者の多数を占める高校3年生の近年の進路選択傾向を考慮して、2019年7月までを重点期間と捉え、この期間にオープンキャンパスに多くの参加者を集めるために、高校訪問やガイダンスを中心に精力的に広報活動を展開する。又、時期に応じた実施内容や情報発信を行い、内容に変化をつけることで志願者の本校への興味を継続させ出願につなげる。さらに開催に当たっては参加者個々のニーズに応じた臨機応変な対応を心がける。

(エ) ホームページ、リスティング広告

ホームページの訪問者が知りたい情報を分かりやすく入手できる内容とする。そのために常に更新を怠らず、学校の行事やオープンキャンパス案内、在校生の活動などの情報発信に努める。

(オ) 学園内の連携

医療ビジネス学科を中心に学園内の大学及び医療系3校との連携を密にした相互補完の考え方を基本に、本校の学園内での存在価値を高める努力を行う。

(カ) 小中学生への対応

中期的な視野に立って、小中学生に向けた広報活動に取り組む。具体的には神奈川県専修学校各種学校協会主催事業「仕事のまなび場」、「チャレンジスクール」に積極的に参加する。さらに個別に小学校や中学と連携し、本校が扱う分野における職業体験の機会を提供し、児童生徒に早期から本校を認識させる。

(3) 教育内容の整備、改善、指導目標

①入職ガイドライン策定に伴うカリキュラム等の見直し

(ア)就職先（配属先）施設との連携

- i. ふれあいグループ施設や関連会社との連携を図り、現場で活躍できる人物像を把握する。
- ii. 入職後にミスマッチが起こらないよう施設見学や職場実習などの機会を充実させる。
- iii. ふれあいグループの「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」という理念を学生に浸透させる。

(イ)教育目標（教育の担保）

- i. 成績評価目標：成績評価基準を見直し、学科ごとに具体的数値目標を採用し、それを満たす教育を提供する。
- ii. 出席率/休退学率目標：出席率を高水準にするための方策を検討し、休退学者の未然防止を行う。
- iii. 資格取得目標：グループに貢献できる人材育成に必要な資格を検討・導入し、目標達成のための授業カリキュラムを充実させる。

(ウ)基礎学力および社会人基礎力の向上

- i. 初年度教育を通じて、基礎学力の向上およびマナー、コミュニケーション能力等社会人基礎力の向上を継続して実践する。
- ii. 入学時より学生の個人能力を把握し、就職サポートを充実させ、社会に貢献できる人材育成のためのキャリア教育を提供する。

②高大接続を考慮した授業カリキュラムの展開と授業デザインの充実

変化する高校教育の延長線上で専門教育を履修できるようにするため、以下の内容を充実させる。

(ア)入学前教育（入門授業含む）

- i. 専門教育を受けるための基礎学習を入学前に展開する。
- ii. 入門授業を実施し、仕上がり像と目標、学習内容を把握させる。

(イ)初年度教育（1年前期に展開）

- i. 朝トレなど基礎学習および学習習慣を身につけさせる学習
- ii. 問題発見技法、解決技法など課題に臨む考え方や行動に関する学習
- iii. レポートの書き方など文書作成に関する学習
- iv. 目標進路に対する動機付け、キャリアビジョン・デザインに関する学習
- v. 社会の構成員としての自覚、責任感、倫理観に関する学習
- vi. メンタルヘルス、精神的・肉体的健康維持に関する学習

(ウ)能動的授業の展開

- i. 学生が自ら学習を深められる（能動的）授業を工夫する。
- ii. 実習・インターンシップを積極的に導入する。
- iii. 演習やワークショップを活用した授業を展開する。
- iv. 調査・研究発表を定期的実施する。
- v. 自習できる環境を整える（図書室等）。
- vi. 学校行事の充実

(エ) ポートフォリオの活用と自己管理

- i. 入学から2年間トータルの学習計画・改善課題の明確化・学修成果をまとめたポートフォリオを作成させ管理させる。
 - ii. 入学時に能力適性、性格適性、エゴグラム、社会人基礎力、厚生労働省職業適性検査等を実施し、自己の能力を把握させる。
 - iii. 自ら目標管理し、自ら考える学習方法を身につけさせ、学習到達度をチェックする。
 - iv. 定期的に個別面談を行い進捗状況や成果、今後のスケジュールなどをアドバイスする。
- ③教員力・組織力・環境力の強化により更なる学生満足度の向上をはかる。

(ア) 教員力

- i. 教科指導能力：自ら授業内容を点検・反省し、相互授業見学の実施により指導力を強化する。
- ii. 学級運営能力：担任の随時面談により、問題の早期発見と対応で、退学・休学を防止する。
- iii. 校務分掌遂行能力：学校のプレゼンス向上を目標に様々な学校運営に参画できる。
- iv. 資格取得、技能技術の習得指導力：知識から知性へと働きかけ、実を残す学生教育ができる。

(イ) 組織力

- i. 学生の基本的生活習慣の確立
- ii. 学校行事の充実：学校行事に主体的に参加することで共同作業をする体験の機会を増やし、仲間作りやコミュニケーション能力の育成と活気ある学校生活を実感できる工夫をする。
- iii. 社会的・公共的マナーの習得

(ウ) 環境力

- i. 継続的な美化・ボランティア活動
- ii. ものを大事にする心の育成
- iii. 挨拶が行き交う明るい校舎
- iv. やって良いこと悪いことの道徳的判断力の育成

(エ) その他

- ・ 事件、事故、犯罪などに巻き込まれないよう普段から継続的に注意を促し、指導を行う。
- ・ 個人情報の取扱、特に SNS などの利用におけるコンプライアンス意識を高める指導を行う。
- ・ 留学生の出席管理および校納金管理を強化徹底する。

④日本語学科の設置

介護福祉学科への質の高い留学生を安定確保するため、2020年10月開設を目標に日本語学科開設に向けた申請準備を進める。

幼保連携型認定こども園みどり幼稚園

2019年度基本方針

ふれあいグループの理念である「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」に基づき、園児一人ひとりの持っている力を信じ、子どもの心に寄り添い、明るくのびのびとした雰囲気の中で「生きる力」を育み「やる気のある子」「心の豊かな子」になるよう保育・教育活動を行う。乳幼児期は周囲への依存を基盤にしつつ自立を目的としており、周囲との信頼関係に支えられた生活の中で、園児一人ひとりが安心感と信頼感を持っているいろいろな活動に取り組む体験を十分に積み重ねていく。1歳から小学校

就学前までの一貫した保育・教育を行い、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を考慮していく。

幼保連携型認定こども園みどり幼稚園の保育・教育目標である

- 1、 丈夫な体を持つ子に
- 2、 正しい考えや行動が出来る子に
- 3、 自発性の高い子に
- 4、 創造力の豊かな子に

を踏まえて教職員は研鑽に努め、指導力の向上をはかり、その成果を保育・教育活動に活かしていく。

2019年度の重点目標

- 健康[健康で安全な生活を作り出す視点から捉え、いろいろな状況に思い巡らせ、心や体を働かせる]
いろいろな遊びを行い、十分に体を動かす。
身の回りを清潔にして衣類の着脱、食事、排泄などの生活に必要な活動を自分で行う。
食育を考え、保育士やともだちと一緒に食べることを楽しむ。
丈夫な体づくりを目標に乾布摩擦の励行、体育講師による運動全般の指導を受ける。
- 人間関係[自立心を育て、人と関わる視点から捉え、他の人々と親しみ思いを巡らせ支えあって生活する]
自分で出来ることは自分です。
自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。
いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちを持つ。
友だちと楽しく活動する中で共通の目的を見だし、工夫や協力をする。
- 環境[周囲の環境に好奇心や探究心を持って関わり、生活に取り入れていこうとする視点から捉え、考えたり扱ったりする]
身近な物や遊具に興味を持ってかかわり、考えたり、試したりして工夫して遊ぶ。
日常生活の中で数量や図形などに関心を持つ。
身近な物を大切にす。
自然に触れて生活し、その大きさや美しさ、不思議さなどに気付く。
- 言葉[言葉に対する感覚や言葉で表現する視点から捉え、経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現する]
保育士やともだちの言葉や話に興味や関心をもち、親しみを持って聞いたり、話したりする。
生活の中で必要な言葉が分かり、使うことができる。
親しみを持って日常の挨拶をする。
絵本や物語などに親しみ、興味を持って聞き、想像する楽しさを味わう。
- 表現[豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする視点から捉え、感じたことや考えたことを自分なりに表現する]
生活の中で様々な音・色・形・手触り・動きなどに気付いたり、感じたりして楽しむ。
いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ。
音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう。

描く、作ることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりする。

自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう。

(乳児)

- ・乳児一人ひとりの発育及び発達の状態や健康状態について適切に判断し、対応する。
- ・保護者との信頼関係を築きながら保育を進める。保護者からの相談に応じ、保護者支援に努める。
- ・食事・排泄・睡眠・衣類の着脱・身の回りを清潔にすることなど基本的な生活習慣が、身に付くよう配慮する。
- ・安全で安心して様々な遊びができるよう配慮し、活動しやすい環境を整える。

(幼児)

- ・クラスの活動だけでなく合同保育や異年齢の交流など、学年を超えた保育に取り組む。
- ・当番活動を通して、責任をもって行う、協力する、手伝うなど経験する。
- ・外遊びや運動を多く取り入れ、健康でのびのびとした活動を行っていく。
- ・一日の保育活動の中に絵本読み聞かせを取り入れる。
- ・誕生児を祝い、成長を共に喜ぶ。(月一回の誕生会を開催する)
- ・近隣の小学校や保育園と連携し、交流を深め、年長児の就学へと繋げていく。
(リズム遊びの共有、小学校探検、ゲームやクイズ、お正月あそび、ボールあそび、教員研修など)

(教職員)

- ・近隣の中学校の職業体験の受け入れや高校生との交流を行う
- ・ふれあいグループの各施設と連携を計り、協力する
湘南医療大学、茅ヶ崎看護、リハ校視聴覚学科の学生を受け入れ、幼児理解の学習に役立てる
- ・教職員・保護者と連携・協力をして園児の安全確保に努める。
- ・園内の整理・整頓・清潔・清掃を心がける。
- ・2ヶ月に一回、避難訓練を行う(地震・不審者・火災など)
- ・非常時に対応できるよう日頃から危機管理を意識し、日々話し合いを行う。

VI 財政計画

1 2019年度予算編成方針

教育の充実と教育環境の改善を継続して進めていくには、安定した財務体質が必要となる。18歳人口減少の中、激しい学校間競争の中で本学園のポジションを維持し、向上を図るには、財務体質の実現が欠かせない。2019年度予算編成に当たっては、大学開学5年目を迎え、また、大学院を開設し、一層の健全な財務体質の基盤構築維持に向け、教育研究経費予算のあり方を見直し、事業活動収支の均衡を図るとともに、系列専門学校改革を意識した課題に対し重点的に資金を充当する。予算編成の基本方針は以下の通り。

(1) 事業活動収入の拡大を図る。

- ア 教育力を一層高め、大学の持つ魅力を増すことで、学納金の安定、拡大を目指す。
- イ 経常的な補助金の確保と競争的資金等外部資金の獲得を図る。
- ウ 寄附金収入の拡大
 - ・法人設立25周年を機に同窓会組織の強化を図り、学校法人の維持の増加を図る。
 - ・薬学部設置等目的別寄附金の募集を強化する。

(2) 事業活動収支の均衡を目指し、収入に見合った支出構造の実現を図る。経費を計画的に節減するとともに、予算は戦略課題に重点的に配分する。

- ア 教育と教育環境の質的向上を図る施策に重点的に資金を充当する。
- イ 建学の理念と学園の教育力を積極的に発信するための戦略的広報を展開する。
- ウ 薬学部設置計画、医療ビジネス観光福祉専門学校日本語学科設置計画、及び下田看護専門学校^{（注）}の学生寮の耐震化工事計画の着実な実施に向けた資金計画を実行する。
- エ 開設後10年以上経過する各校舎(園)は、校舎の施設設備の修繕を計画的に行う。

(3) 財務指標の具体的な目標値は以下の通り。

- ア 人件費比率：現在、44.3%の水準にあり、これは同系統大学の平均水準（52%）より抑えられた値のため、この水準を維持していく。
- イ 教育研究経費比率：2022年度までに同系統大学の平均水準（31%）を実現する。2019年度はその初年度として29%を目標値とする。

2 予算案の概要

ア 資金収支予算の概要

資金収支計算書は、学校法人の当該会計年度の諸活動に対応する全ての収入および支出の内容並びに当該会計年度における支払資金の収入及び支出のてん末を明らかにするものである。

2019年度の資金収支予算は、資金収入（学生生徒納付金、手数料収入、寄附金収入、補助金収入等）の合計が、前年度繰越支払資金 3,466,624 千円を含み、6,544,046 千円を計上しました。

※前年度より 8,650 千円の学生生徒納付金収入の増収を見込んでいる。

資金支出（人件費、教育研究経費、管理経費、施設設備費等）の合計は、6,544,046 千円で、この結果、差し引き 2,880,677 千円が翌年度繰越支払資金となり、前年度繰越支払資金 3,466,624 千円との差額は 414,053 千円の増となり資金収入の増加が見込まれる。

イ 事業活動収支計算書の概要

事業活動収支は、単年度の事業活動における収支内容と均衡状態を明確にし、経営状態を表すもので、法人に帰属する借入金等の資本的収入に充てる額と固定資産等の資本的支出に充てる額を除いた支出を計上するものである。

2019年度の事業活動収支予算は、事業活動収入（学生生徒納付金、手数料、寄附金、補助金等法人に教育活動のみに係る収入）は、3,025,135 千円を計上した。また、事業活動支出は、人件費、教育研究経費、管理経費等で、2,520,224 千円の予算を編成した。その他、教育活動外収入は、110 千円、教育外活動支出では、借入金利息支払いで 57,991 千円の支出を計上した。

それにより、基本金組入前当年度収支差額は、438,729 千円の収入超過を見込んでいる。尚、基本金組入額（施設設備等の積み立て等に充当）は、140,702 千円を計上予定である。

ウ 主要財務指標

比率名	算出方法	平成30年度(予算)	平成31年度(予算)
人件費比率	人件費 経常収入	46.2%	44.3%
人件費依存率	人件費 学生生徒等納付金	54.8%	57.7%
教育研究経費比率	教育研究経費 経常収入	30.3%	27.2%
管理経費比率	管理経費 経常収入	12.3%	11.8%
事業活動収支差額比率	基本金組入前収支差額 事業活動収入	9.2%	14.5%
基本金組入後収支比率	事業活動支出 事業活動収入-基本金組入額	77.9%	81.3%
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金 経常収入	84.3%	76.8%
寄付金比率	寄付金 事業活動収入	2.9%	3.2%
補助金比率	補助金 事業活動収入	7.5%	14.8%
減価償却額比率	減価償却額 経常支出	12.2%	11.9%
経常収支差額比率	経常収支差額 経常収入	9.0%	14.8%
教育活動収支差額比率	教育活動収支差額 教育活動収入計	11.2%	16.7%
基本金組入率	基本金組入額 事業活動収入	-16.6%	-4.6%

経常収入＝教育活動収入＋教育活動外収入 計

経常支出＝教育活動支出＋教育活動外支出 計

VII 施設・設備計画

2019年度の主な施設・設備計画については下記のとおりである。

下田看護専門学校学生寮改築工事を始め、各学校の修繕計画、教育備品の購入計画等に基づき、整備充実を行い、加えて特色ある教育推進のための環境整備を図る。

学校名	事項	事業費
湘南医療大学	保健医療学部図書	12,000千円
	大学院の図書	2,000千円
	大学院の教育用備品	4,100千円
茅ヶ崎看護専門学校	教育用備品	6,000千円
下田看護専門学校	学生寮改修	354,000千円
茅ヶ崎リハビリテーション専門学校	教育用備品	5,800千円
医療ビジネス観光福祉専門学校	教育用備品	3,000千円

VIII 生涯学習事業及び受託事業計画

1 湘南医療大学

看護系：認定看護師（認知症看護分野）、看護師実習指導者講習会、認定看護管理者（セカンドレベル）2019.3 申請

2 医療ビジネス観光福祉専門学校

介護系：介護職員初任者研修、介護福祉士実務者研修

3 ふれあい医療福祉研修センター

福祉系：喀痰吸引等研修、介護職員初任者研修、介護福祉士実務者研修、介護福祉士国家試験対策講座、

社会福祉系：社会福祉士実習指導者講習会、社会福祉士国家試験対策講座

医療事務系：医療事務講座（初級・中級）

詳細は 36 ページ

IX 収益事業

不動産賃貸業の検証を継続的に行い、常に環境整備を図り収益向上に努める。

X 監査計画

学校法人湘南ふれあい学園監事監査規程第4条の業務監査及び財産の状況監査について、監事が作成する2019年度監査計画に基づき、監事監査を実施するとともに、監事、会計監査人及び内部監査班との連携を強化する。また、監査対象の監査報告に対する意見聴取を行い、今後の監査に活かす。

1 監査の対象

業務監査：湘南医療大学、茅ヶ崎看護専門学校

会計監査：公認会計士と連携

2 監査の方法

・理事会、評議員会等の主要な会議へオブザーバーとして出席

・湘南医療大学および茅ヶ崎看護専門学校

学校、園の業務内容を主として、監事が学長、学校長と面談しヒアリング形式で実施する。

・公認会計士と監事が面談による会計監査を実施する。

3 監査の実施時期

定期監査（業務監査）	内部監査終了後、2019年12~3 月の間に実施
（会計監査）	内部監査（2019年 8~9 月頃予定）は、内部監査班が実施 2020年4~5月公認会計士、内部監査班と連携して実施

4 監査報告書の作成

監査報告書（業務監査）	2020 年 3月までに報告する
（会計監査）	2020 年 5月

2019年度資金収支予算書

2019年 4月 1日から
2020年 3月31日まで

(単位:円)

収入の部	
科 目	予 算
学生生徒等納付金収入	2,322,809,000
授業料収入	1,456,010,000
入学金収入	129,550,000
実験実習料収入	233,160,000
施設設備資金収入	439,230,000
諸費収入	59,000
基本保育料収入	39,600,000
在籍料収入	1,200,000
附属教育事業収入	24,000,000
手数料収入	51,740,000
入学検定料収入	36,340,000
試験料収入	14,300,000
証明手数料収入	1,100,000
諸費収入	0
専攻科検定料収入	0
実習費負担金収入	0
寄付金収入	98,000,000
特別寄付金収入	0
一般寄付金収入	98,000,000
補助金収入	447,631,000
国庫補助金収入	90,000,000
都道府県補助金収入	259,402,000
市町村補助金収入	1,029,000
施設型給付費収入	97,200,000
資産売却収入	0
その他の資産売却収入	0
付随事業・収益事業収入	47,040,000
補助活動事業収入	34,740,000
付帯事業収入	8,800,000
教材料収入	3,500,000
業務受託収入	0
収益事業収入	0
受取利息・配当金収入	110,000
その他の受取利息・配当金収入	110,000
雑収入	57,565,000
施設設備利用料収入	17,800,000
研究関連収入	1,215,000
その他の雑収入	38,550,000
借入金等収入	0
長期借入金収入	0
前受金収入	1,216,160,000
授業料前受金収入	745,585,000
入学金前受金収入	129,550,000
実験実習料前受金収入	118,500,000
施設設備資金前受金収入	222,525,000
教材料前受金収入	0
諸費前受金収入	0
実習費負担金前受金収入	0
その他の収入	46,154,000
前期未収入金収入	23,654,000
貸付金回収収入	0
預り金受入収入	22,500,000
仮払回収収入	0
敷金回収収入	0
資金収入調整勘定	△ 1,209,786,500
期末未収入金	△ 24,254,000
前期末前受金	△ 1,185,532,500
前年度繰越支払資金	3,466,624,275
収入の部合計	6,544,046,775

支出の部	
科 目	予 算
人件費支出	1,325,260,000
教員人件費支出	1,054,300,000
職員人件費支出	267,000,000
役員報酬支出	3,960,000
退職金支出	0
教育研究経費支出	545,038,000
消耗品費支出	58,400,000
光熱水費支出	56,370,000
旅費交通費支出	19,817,000
奨学費支出	51,600,000
福利費支出	24,319,000
通信費支出	6,822,000
印刷製本費支出	10,060,000
修繕費支出	46,160,000
損害保険料支出	7,180,000
賃借料支出	29,040,000
報酬委託手数料支出	180,896,000
保健衛生費支出	1,064,000
行事費支出	4,721,000
実習費支出	24,340,000
研修費支出	2,427,000
教材費支出	11,465,000
給食費支出	10,000,000
研究助成費支出	0
雑費支出	357,000
管理経費支出	325,028,300
消耗品費支出	29,021,000
光熱水費支出	8,109,000
旅費交通費支出	6,832,000
福利費支出	10,405,000
通信費支出	14,180,000
印刷製本費支出	19,865,000
修繕費支出	13,529,000
損害保険料支出	2,518,000
賃借料支出	12,346,000
公租公課支出	10,363,000
広報費支出	85,582,300
諸会費支出	5,363,000
渉外費支出	145,000
報酬委託手数料支出	86,850,000
負担金支出	75,000
保健衛生費支出	0
行事費支出	0
実習費支出	50,000
研修費支出	440,000
教材費支出	1,750,000
給食費支出	12,180,000
車両燃料費支出	1,170,000
雑費支出	4,255,000
借入金等利息支出	57,991,000
借入金利息支出	57,991,000
借入金等返済支出	126,865,000
借入金返済支出	126,865,000

科 目	予 算
施設関係支出	375,350,000
建物支出	373,650,000
構築物支出	1,700,000
建設仮勘定支出	0
設備関係支出	66,750,000
教育研究用機器備品支出	43,000,000
管理用機器備品支出	4,800,000
図書支出	18,950,000
車両支出	0
資産運用支出	0
その他の支出	134,832,302
前期末未払金支払支出	133,607,352
預り金支払支出	0
その他の固定資産支出	60,000
預託金支出	0
前払金支払支出	1,164,950
仮払金支払支出	0
予備費	(15,000,000)
資金支出調整勘定	△ 308,745,550
期末未払金	△ 307,580,600
前期末前払金	△ 1,164,950
翌年度繰越支払資金	3,880,677,723
支出の部合計	6,544,046,775

事業活動収支予算書

2019年 4月 1日から
2020年 3月31日まで

		科 目	予 算
事業活動収入の部		学生生徒等納付金	2,322,809,000
		授業料	1,456,010,000
		入学金	129,550,000
		実験実習料	233,160,000
		施設設備資金	439,230,000
		諸費	59,000
		基本保育料	39,600,000
		在籍料	1,200,000
		付属教育事業収入	24,000,000
		手数料	51,740,000
		入学検定料	36,340,000
		試験料	14,300,000
		証明手数料	1,100,000
		諸費	0
		専攻科検定料	0
		実習費負担金	0
		寄付金	98,350,000
		特別寄付金	0
		一般寄付金	98,000,000
		現物寄付金	350,000
		経常費補助金等	447,631,000
		国庫補助金	90,000,000
		都道府県補助金	259,402,000
		市町村補助金	1,029,000
		施設型給付費補助金	97,200,000
		付随事業収入	47,040,000
		補助活動事業収入	34,740,000
		付帯事業収入	8,800,000
		教材料収入	3,500,000
		受託業務収入	0
		雑収入	57,565,000
	施設設備利用料収入	17,800,000	
	研究関連収入	1,215,000	
	その他の雑収入	38,550,000	
	教育活動収入計	3,025,135,000	

	科 目	予 算
教育活動収支	人件費	1,340,260,000
	教員人件費	1,054,300,000
	職員人件費	267,000,000
	役員報酬	3,960,000
	退職金	0
	退職給与引当金繰入額	15,000,000
	教育研究経費	821,833,000
	消耗品費	59,750,000
	光熱水費	56,370,000
	旅費交通費	19,817,000
	奨学費	51,600,000
	福利費	24,319,000
	通信費	6,822,000
	印刷製本費	10,060,000
	修繕費	46,160,000
	損害保険料	7,180,000
	賃借料	29,040,000
	報酬委託手数料	180,896,000
	保健衛生費	1,064,000
	減価償却額	275,445,000
	事業活動支出の部	行事費
実習費		24,340,000
研修費		2,427,000
教材費		11,465,000
給食費		10,000,000
研究助成費		0
雑費		357,000
管理経費		358,131,300
消耗品費		30,221,000
光熱水費		8,109,000
旅費交通費		6,832,000
福利費		10,405,000
通信費		14,180,000
印刷製本費		19,865,000
修繕費		13,529,000
損害保険料		2,518,000
賃借料		12,346,000
公租公課		10,363,000
広報費		85,582,300
諸会費		5,363,000
渉外費		145,000
報酬委託手数料		86,850,000
負担金		75,000
保健衛生費		0
減価償却額		31,903,000
行事費		0
実習費		50,000
研修費		440,000
教材費		1,750,000
給食費	12,180,000	
車両燃料費	1,170,000	
雑費	4,255,000	
徴収不能額等	0	
徴収不能額引当金繰入額	0	
徴収不能額	0	
教育活動支出計	2,520,224,300	
	教育活動収支差額	504,910,700

教育活動 収入の部	事業活動 収入の部	科 目	予 算
		受取利息・配当金	110,000
		その他の受取利息・配当金	110,000
		その他の教育活動外収入	0
		収益事業収入	0
	教育活動外収入計	110,000	
	事業活動 支出の部	科 目	予 算
		借入金等利息	57,991,000
		借入金利息	57,991,000
		その他の教育活動外支出	0
教育活動外支出計		57,991,000	
教育活動外収支差額		△ 57,881,000	
経常費差額		447,029,700	
特別 収入の部	事業活動 収入の部	科 目	予 算
		資産売却差額	0
		不動産売却差額	0
		その他の特別収入	6,700,000
		現物寄付	6,700,000
		施設設備補助金	0
		過年度修正額	0
	特別収入計	6,700,000	
	事業活動 支出の部	科 目	予 算
		資産処分差額	0
		建物除却差額	0
		教育研究用備品除却差額	0
		管理用備品除却差額	0
		図書除却差額	0
		車両除却差額	0
その他の特別支出		0	
過年度修正額	0		
特別支出計	0		
特別収支差額		6,700,000	
[予備費]		(15,000,000)	
基本金組入前当年度収支差額		438,729,700	
基本金組入額合計		△ 140,702,000	
当年度収支差額		298,027,700	
前年度繰越収支差額		1,591,170,847	
基本金取崩額		0	
翌年度繰越収支差額		1,889,198,547	
(参考)			
事業活動収入計		3,031,945,000	
事業活動支出計		2,578,215,300	

学校法人湘南ふれあい学園 2019年度研修事業

運営主体	湘南医療大学			医療ビジネス観光福祉専門学校			ふれあい医療福祉研修センター							
系統	看護系			介護系			介護系			社会福祉系			事務系	
事業名	認定看護管理者教育課程 (セカンドレベル)申請中	看護師実習指導者講習会	認定看護師養成課程 (認知症看護分野)	介護職員初任者研修	介護福祉士実務者研修	介護福祉士国家試験対策講座	介護職員初任者研修	喀痰吸引等研修	介護福祉士実務者研修	社会福祉専攻科(通信)	社会福祉士実習指導者講習会	社会福祉士国家試験対策講座	医療事務講座(初級)	医療事務講座(中級)
期日	2019.11月以降	2019.8月～11月	2019.6月～2020.3月	2019.7月～12月	2019.7月～12月	2019.10月～11月	第1回:2019.8月～11月 第2回:2019.11月～2020.3月	2019.10月～12月	2019.7月～12月	毎年4月～翌年9月末	2020.2月～3月	2019.7月～12月	2019.8～2020.1	2019.10～2020.2
日数		240時間 (eラーニング含む)	665時間	15日(講義15日)	6ヶ月	3日	17日(講義15日、実習2日)	10日(講義8日、演習1日、実習1日)	6ヶ月	1年6ヶ月	2日	10日	6ヶ月	12日
会場	湘南医療大学	湘南医療大学	湘南医療大学	医療ビジネス観光福祉専門学校	医療ビジネス観光福祉専門学校	医療ビジネス観光福祉専門学校	講義:研修センター実習:湘南シルバードーデンほか	講義:ふれあい医療福祉研修センター実習:ふれあい医療福祉研修センター実習:茅ヶ崎新北陵病院ほか	講義:ふれあい医療福祉研修センター医療的ケア:ふれあい医療福祉研修センター医療的ケア実習:茅ヶ崎新北陵病院ほか	ふれあい医療福祉研修センター	ふれあい医療福祉研修センター	ふれあい医療福祉研修センター	ふれあい医療福祉研修センター	ふれあい医療福祉研修センター
定員	20名	20名	15名	20名	30名	15名	20名×2	15名	30名	80名	20名	30名	20名	20名
取得資格	認定看護管理者教育課程修了	看護師実習指導者講習会修了	認定看護師教育課程修了	介護職員初任者研修修了	介護福祉士国家試験受験資格	—	介護職員初任者研修修了	喀痰吸引等研修修了	介護福祉士国家試験受験資格	社会福祉士国家試験受験資格	社会福祉士実習指導者講習会修了	—	ふれあい医療事務管理士(初級)	ふれあい医療事務管理士(中級)